

第12期 社会教育委員の会議（第7回） 会議録

● 開催日時 令和2年1月17（金） 午後2時～4時

● 会 場 702 会議室

● 出席者

社会教育委員 5人

大島 英樹	野川 春夫
大畑 廣行	竹高 京子
長峰 政子	

事務局職員 4人

葛飾区教育委員会事務局参事、生涯学習課長	加納 清幸
生涯学習課学び交流事業推進係長	伊藤 清美
生涯学習課学び交流事業推進係主査（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び交流事業推進係	宮田 耕一郎

オブザーバー 1人

生涯スポーツ課事業係長 張替 武雄

出席者 計10人

次第

1 報告事項

(1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会

2 議事

- (1) 提言作成に向けての課題の整理
- (2) 今後の会議の進行について
- (3) その他

【配付資料】

- 第6回会議会議録（案）
- 基本構想・基本計画策定関係資料 [資料1]
- 大島議長提供資料
- 第12期社会教育委員の会議スケジュール（案） [資料2]
- 区政会館だより NO.358（抜粋）
- 関連事業チラシ（第二回亀参初あそび、弁護士に聞く成年後見人制度、初心者体験講習会（新小岩学び交流館）、中央図書館ビジネスセミナー、いのちの居場所こども食堂、かつしかふれあいRUN フェスタ）

— 開会 —

○事務局 ただいまから第7回社会教育委員の会議を始めます。

本日、鈴木委員が仕事により、風澤委員、熊谷委員が公務により欠席されます。

本日は、傍聴者はいらっしゃいません。

では、本日の資料についてです。第6回の会議録の（案）を机上配付しておりますが、修正点がございましたら、1月31日の金曜日までにご連絡をお願いいたします。

なお、第5回の会議録は、近いうちに葛飾区公式ホームページに掲載する予定です。

資料1は、葛飾区基本構想・基本計画策定委員会の現在の状況について、大畑委員からの提供資料です。

資料2は、今後のスケジュールの案です。

資料番号はありませんが、白い両面刷りの資料がございます。こちらは、大島議長から本日の議題の資料としていただいております。

その他参考資料として、区政会館だよりの358号の中の他区の東京オリンピック・パラリンピックに関する記事がございます。また、生涯スポーツ課のふれあいRUNフェスタのチラシを含め、生涯学習関連事業のチラシを配付しております。

それでは、この後の進行は大島議長にお願いいたします。

1 報告事項

(1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会

○大島議長 それでは、改めまして、皆様こんにちは。早速ですが、議事に入っていきたいと思っております。

報告事項の(1)葛飾区基本構想・基本計画策定委員会について、大畑委員、ご報告をお願いいたします。

○大畑委員 12月26日に第3分科会がありました。前回の社会教育委員の会議では、基本構想が変わらないのではなかと皆さんとお話をいたしました。今回、その考え方を検討するという段になり、今までのものを基にとりあえず叩き台として出ていたのが、構想(案)でした。その部分がはっきりわからなかったので、各分科会で話す内容について、先が見えないままではお話ししても仕方ないのではないかと疑問がありました。今回、その辺の部分は、あくまでも現状で、これから改善すべきものは改善するというところで、事務局の提案としては今までの「水と緑豊かな心ふれあう住みよいまち」ということで、今後変更になる可能性は十分にあります。

理念についての提案の仕方、どういう形で提案していくかは、白枠になっていますが、白枠の中にまた文章を入れて一つの冊子づくりをしていこうと考えているという状況です。

前回、お話ししませんでした。各施策の長期的な方向性について、前回皆さんから意見が出まして、現状の課題、将来における希望について、皆さんからいただいた意見を取りまとめた中で、次ページの四角い枠の中に「基本構想に描く長期的な方向性」という形で例示されています。どちらかといえば、この部分が、これからの整合性を含めて検討される部分だと思います。施策の6から始まって18まであります。

この内容についてですが、本来施策18、文化・国際になっていますが、計画年度などの細か

いことを言っていない段階で、施策の区分けを減らしてもいいのかどうかも含めて、現状の中での考えられる新しい構想に盛り込むべき提案ということで検討されています。

次に、また全体会があって、そこで基本構想についての話をしますが、一応分科会としての意見としてそういう形の現状と将来に向けてということの提案となっています。

資料3、今の「水と緑豊かな心ふれあう住みよいまち」、これがどういう経緯でつくられたものか、どういう形で表現されているものかということが書かれています。これを読んでいただくと、多分「心ふれあう住みよいまち」というのは、私は人間社会全部共通すると思います。「水と緑豊かな」というのが、これが葛飾区を表現したいのかなという感じがします。

次のページからは、アンケートの結果です。現在の葛飾のイメージということで、年代別、地域別等の分析がされています。しかし、私個人の意見で言えば、あまり当てにならないのかなと思います。というのは、基本構想そのものが、皆さん多分ほとんどわかっていない中で、基本構想、こういうものがありますけど皆さんどう思いますか、ということで、もしアンケートしたとすると変わってくると思います。基本構想は、現状の中では、葛飾区を表現されているのかなと思っています。とりあえずこういう数字が出ていますので、これは見方によるとこの部分が下がってきているねというのが、新しい表で出るのかなと思っています。見比べるチャンスがありましたら、見ていただければと思います。

続きまして、参考資料の1です。下段の施策の現状と課題というのが、今回分科会の中で取り組んでいるものですね。この後、施策も長期的な方向性などを取りまとめながら、下から上に上がっていった長期計画、それから当期計画に結びつけながらの構想ということで、今、下から組み上げていくのかなというのが現状です。

まだ3回程度しか行われていないので、完全な構想ができて上がることはないとは思いますが、いずれにしても、事務局からいい提案をしてくれるのではと期待しています。構想がしっかりでき上がれば、それなりの意見が皆さんから出てくるのかなと思いますが、今の段階では叩き台として、現状の中でどういうふうにできたらいいかなと。現状の問題点はどのようなものなのかを話し合っているということです。

簡単ですが報告とさせていただきたいともらいます。

○大島議長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からご質問やご意見はございますか。お願いしたいと思います。

資料1の「前文（検討中）」となってところは、これから入るのでしょうか。

○大畑委員 そうですね。この「前文（検討中）」は、基本理念に対して構想が決まった中でどういう言葉が入っていくか。四角の中には、これを考える上での一つの形となると大きく捉えたらどういう言葉が入るのか、ということになると思います。

○大島議長 資料2は、四角の中には方向性が書いてありますが、ここも議論があるところかな

と思います。

○大畑委員 まだ変わる余地はあると思います。今この分科会の中で、こちらの子ども、社会教育の分科会という中では、現状からどんなことが考えられるか、ということで書かれていますので、まだこれからも動きも必要だというのであれば、運営をされていくと思います。

現状の課題、それから今後10年で取り組む方向性が、順番に枠が書かれています。

○大島議長 ありがとうございます。

○大畑委員 基本構想の言葉は、昭和54年に小日向元区長のときにできたもので、平成2年にそれを再検討して、「区民とつくる」が入り、今回、また新たにどうしようかということです。いかんせんもう古いのではないだろうかという提案はさせてもらったのですが、ほかの言葉が浮かびません。いい知恵をかしてください。

○長峰委員 妊娠・出産・子育てという言葉がありますが、昨年度、葛飾はたしか子育てしやすいランキングが8位で、今年度は1位になったのですね、全国で。

○大島議長 全国で。

○長峰委員 それはどんなような点が評価されて、どういうところがよかったのかなと思いで。確かに、子育てしやすいとは思いますが。

○大島議長 勉強不足ですみません。どういう調査なのでしょう。

○竹高委員 昔は江戸川区が1位でしたよね。今は江戸川区の政策が変わって、子育てをしている人たちに対してのケアなどは、葛飾区の評価のほうが高くなってきたので、こちらのほうに移ってくる子育て世代の方もそれなりにいるというお話は聞きます。

でも、本当にそうなのか、少しは課題があるのかなと思います。小学校に毎日ボランティアに行っているものですから、いろいろ思うところはあります。

随分昔に立てられた言葉やその内容が、区民の方たちに全く浸透していないのでは、やっても意味がないなど、毎回いろんな会議に出て思います。区民の方がもっと身近に感じられ、葛飾区はこういうことを掲げているのだと分かるようなものが本来だと思います。

ただ、そうはなっていないというのが現実です。構想も、事務局の考えで、ある程度のところで、これでいいですか、で行っちゃうので。よほどひどくない限りは、そうですね、と了承せざるを得ません。もう少し掲げてほしいものがあるのではないかと、いつも感じます。

○大畑委員 個人的な意見ですが、基本構想が決まったら、葛飾区のホームページの真上にどんと上げてもらいたいですよね。

○竹高委員 そうですね。それで恥ずかしくない基本構想を立てていただきたいと思います。

○大畑委員 葛飾区がこういうことを目指して動いているということが、その段階でわかるようなものができれば、それが一番いいのかなと思います。

○竹高委員 皆さんでまとまって思っているところに力を入れていく、という形があるといいの

ではないかと思えます。

○大畑委員 そうですね。あんまり狭くしちゃうと行政が大変だと思います。

○竹高委員 そうなのです。だから、曖昧に言葉をつくるのは分かります。

○野川副議長 私が行っている印西市が、日本で一番住みやすい市だというのは。みんな、何をもって評価したのだろうね、となります。

○長峰委員 今年は川口市が1位になりましたよね、日本で一番住みやすい街ランキングで。

○野川副議長 川口の人に言わせると、人口は増えていて、外国人がいっぱい来ていて、電車は大変だし、物価は上がっちゃうし、という話を今日聞いたばかりです。

○大畑委員 世間の評価というのも大切でしょうが、やはり住んでいる人たちが、どういう方向で自分のまちができていくのか、どういう方向にいるのだというのは、分かるものがあればいいような気がします。満足感という面ではね。決して高望みしなくていいですが、希望も持てるようなものができていけばと思います。

○大島議長 ありがとうございます。

今のご意見を、次の議事のご意見としていただきながら、協議、検討に入れればと思います。では、報告事項につきまして、一旦区切って終わらせていただきます。

2 議事

(1) 提言作成に向けての課題の整理

○大島議長 では、早速ですが、2番目の議事に入りたいと思います。

提言作成に向けての課題の整理ということで、私から問題提起をさせていただきたいと思えます。

お手元の資料をご覧ください。

タイトルには、課題の整理、提言に向けて、その下にお書きしたとおり、これまでの議論を踏まえた課題の整理をお示しして提言に向けた意見交換をしたいなと思えます。

お仕事の関係で、校長先生方のお声が聞けないのが寂しいところです。曜日が悪いのでしょうか。また、鈴木委員は、美術館のお仕事をされているということで、特に文化につなげて考えていくところでも非常に大事だと思います。今日でこの話は決まるわけではありませんが、たくさん声をいただければと思います。

では、中身のI番、「課題の整理」から行きたいと思えます。これまでの会議で学んだ知識、情報、委員の皆様から出たご意見を、このように整理してみました。

まず1つ目、太文字の1番「オリンピックは『契機』にすぎない」ということですが、お話を

いろいろ聞いたり勉強したりすればするほど、そうだな、というのが率直なところ。たくさんご意見をいただけるように、少し個人的な言い方を繰り返したいと思いますが、一番直接的な例としてはマラソンがあります。道路まで張りかえて準備をしてきたのに、委員会が北海道で、と言ったら、そうします、ということはどう評価すべきか。そういう中でいただいたこの協議テーマを、どうやって自分たちのものにするのか、ということを考えてみたいと思います。

それから、太文字の2番、「『自律的』『持続的』なスポーツの文化の構築を」。これは全く勝手につけた言葉遣いです。これまでのお話を聞いていて非常に感じるところが、何かやらされているからやる、という話ではなくて、もう勝手にやりたくてもうやっちゃう、というような自律的ということと、オリンピックやイベントがあった瞬間だけ盛り上がるという話ではなくて、区切りがついてもずっと続くというような、持続的というようなことが大事なのではないかと感じていて、それを「スポーツの文化」という言い方でまとめられるのかどうか。そんなこともご意見いただけたらなと考えています。

ここについては少し、より具体的な実現のための方向性を、幾つかご意見としても出ていたのではないかと、そこには4つほど上げています。

1つは、毎回、目を見開かされるような新しいことを教えいただきました野川副議長からは、「スポーツ科学」の知見など、ちょっとでも僕らが知ると、ああ、今までと違う感覚を持っているということがいっぱいある気がしますので、これを上手に提言にも入れていくと、それこそ、へえ、なるほど、ということが出てくるようなものを考えればなと思います。

2点目の「新規参入の促進」というところは、まず、新規参入の一番の対象者として私自身があります。普段やらない人間が、さあやってみようということは、非常に大事だろうと思います。実際に水元総合スポーツセンターも訪問させていただいて、これまでの施設利用のお話をいろいろ聞いている中で、活動時間は、クラシックな形では午前・午後・夜間というような区切りがあって、その中を割るにしても2時間という単位が標準的となっているかと思っています。そういったことも一度取り払ってみると、もっといろんな使い方ができるのではないかと思います。活動の単位時間が、短くてもできることがあるのではないかと感じています。

4つ目の「ゆるいつながり」というのは、計画を立てる、組織化するというところから見ると、難しい課題だとは思いますが、かかわる側としては気楽さがある。全く何もなく不意で飛び込むのも大変です。何となくつながっているというゆるいつながりは、非常にやる側は気持ちいいのかなど。こういうことも方向性として検討できたらいいのではないかと考えています。

そして、太文字の3番、「メッセージ（提言）」というのは、一体誰に向けてのものになるのか、ということで、ここでは大きく3つ、さらに細かく分けてみることもできるのではないかと上げています。まず1つ目、「対象者」については、ありがちですが年代別に、ということ。それから、そのほかにも「属性別」ということです。属性と言えるのかどうかというのもあります。

が、終日区内にいる方ではなくて、通勤をされている方にとってどうか、という見方。それから、「自治会」という書き方をしましたけど、主に日中も区内で過ごされる方。「・・・」になっていますが、来月もご報告いただく予定になっている障害をお持ちの方。属性として良いか分からなかったので、「・・・」としています。そうした属性別に対象化するという考え方が1つ。

それから、これは社会教育委員の会議としての提言なので、行政に向けてということも必要で、それはもう直接的に「担当課」であるこの生涯学習課、今日お見えいただいている生涯スポーツ課、そしてそれ以外の「関連部署」に向けて、どのようなメッセージができるのかということ。それから「学校」となっていますね。

そして、大きな括りの3つ目としては、「事業者」に対しては、これも関連部署というところからのメッセージにもなるかもしれませんが、直接的にも区の中でさまざまなことをされている方々へということ対象化できるのかなと、そんなふうにも考えてみました。

これに対してご意見ください、というのもやりにくいと思うので、裏をごらんください。

「Ⅱ. 提言にむけて」ということで、今日は自由な意見交換ができたかと考えていますが、今日いただくご意見、それから2月のご報告内容も含めて、3月には、先ほど大畑委員から基本構想の構成(案)というものを出示していただいたように、提言についても構成(案)を提示できたらいいなと考えています。

そのために、柱建てやスケジューリングということを考えながらご意見いただければと思います。まず1つ目、協議テーマの確認ということで、当初こういうテーマをいただいたわけです。

「『東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会』を契機とした文化の創造と継承について」。

このテーマを確認した上で、2番目、「葛飾区として目指す姿は？」ということを強調するわけですね。先月、東京都の取り組みについてお話を伺いましたが、国としてどうなのか、東京としてどうなのか、その中で葛飾区としてどうなのか。そして、さらに区民の方一人一人を考えたときに、葛飾区目指す姿はどうなのか、ここについて特にたくさんのご意見を頂戴できればなと思います。

3つ目、「のぞましい提言の時期は？」ということですが、レギュラーな形でいくと、来年の1月頃に提出すると聞いています。途中でオリンピックが来るわけですが、終わってから出すのか、始まる前に出すのかでも内容は変わらなと思うので、ご意見をいただけたらと思います。

4番目の「その他」として、提言する上で不足している視点、あるいは必要なデータや情報もご指摘いただいて、より多くの人に届く提言にできたらなと考えております。

そういうことで、非常に文字数の少ない資料ですが、突っ込みどころはたくさんあるのかなと思います。皆様からご意見をいただければと思います。

○竹高委員 例えば 2020 大会に向けての形で考えるならば、3月にはまとめて7月ぐらいには

出さないといけないですよ。でも、それまでにあと3回ほどの間に、昨年の4月からやってきたことをまとめて論点にすることが果たしてできるのかなという疑問と、このテーマが余りにも大きいので、何に対してどうするか、まだ全然皆さんとお話できていない中で、どこに焦点を当てた提言にするのかということすらまとまっていないので、どうでしょうと思います。

2020 大会に向けてのものであれば、オリンピックが行われる前の期の社会教育委員で話すことだったのではと思います。「契機として文化の創造と継承」とついているということは、終わった後に発表するということを見込んでのことだったのかなとは思いますが。でも、このテーマで提言があったら、いや、もう終わっちゃったでしょうとおっしゃる方もいるでしょうね。

2020 大会前であれば、今年の春までに、2020 に向けてのことだけに焦点を当ててお話し合いを、そうでないのであれば、やはりテーマをもう少し違う形の言葉にしないと、視点が全く変わってしまう気がします。今まで、オリンピック・パラリンピックに向けて、どれだけ私たちが動けるか、それから先動いていくことが大事か、ということをお勉強させていただいています。だとすれば、本当にそこにスポーツに関して集中してやるのであれば、今年の春までに集中してやればよいと思います。

○大島議長 非常に重要なご指摘です。

○長峰委員 ただ、この協議体を考えれば、やはり後々残るように、終わってからのことを考えて協議すべきかなと私は思いました。

○竹高委員 だとすると、このテーマだと、東京2020と入っていると、皆さん2020のことだけを思い浮かべてしまうのではないかと思います。実際に、私、何のテーマでやっているのか聞かれたときに、テーマを言うと、え、でも出すのはオリンピックが終わった後だよと言われることがありました。区民の方は、そう捉えられているように、お聞きしています。

○長峰委員 ラグビーのワールドカップを考えると、すごい盛り上がりでしたし、今も盛り上がりが続いていますよね。そういう盛り上がりがある東京2020でもあれば、それを土台にしてではないですが、今はスポーツをしていない皆さんにもスポーツに興味を持っていただくことが大切だと思います。

○竹高委員 文化の創造と継承という言葉、どこまで創造して継承していくのか、定義の話のかなとは思いますが。

○大島議長 今日は時間がたっぷりあるので、疑問点はなるべく出して、納得いく形を目指せたらと思います。

でも、そういう意味では、私も「スポーツの文化」と書きましたが、協議テーマにある「文化の創造と継承」はもっと広い意味ですよ。先月都庁の方にご説明いただきましたが、文化の部分はあまり得意ではないですが前置きされて、でもそれぐらい対象にはするのはもっと広いんだぜということもおっしゃっておられました。ここが社会教育の会議だという視点からも、対象

は広いのかなと思います。

○長峰委員 私は、スポーツ推進委員ということで参加をさせていただいており、ほかのことがあまりよくわかっておりません。だから、そのほかのことは皆さんにご意見を頂戴して、私がお話をできるとすれば、スポーツのことを中心にお話をしたいと思います。

1番の「オリンピックは『契機』に過ぎない」について。給水係のボランティアとして、マラソングランドチャンピオンシップに参加いたしました。2020大会のために、同じコースで主要選手に走っていただいたわけですが。それなのに、その後に突然札幌になってしまって、本当にとまどってしまいました。2020大会もボランティアで参加できるかと思っておりましてところ、札幌に行ってしまったのでどうしようかなと考えています。

○大島議長 ボランティアをされた方は本番のときもやってね、ということでしょうか。そうすると、本番は札幌に来てやってください、という話になってもいいと思うのですが。

○長峰委員 ボランテイナというサイトにボランティアの登録をしています。そうしますと、いろいろな大会のご案内がメールで来ます。それで、参加表明すると、抽選で当選案内が来ます。

○大島議長 申し込みの対象者は誰でしょうか。

○長峰委員 そのボランテイナの登録者です。ただ、オリンピックは大会ボランティアがおりますので、そちらのほうでやるかもしれません。

○野川副議長 その辺は、よくわからないみたいです。結局は、競技別でやってもらわないと勝手が分かりません。陸上専門でずっとやってきた人にサッカーをお願いしても、困ってしまうと思います。やはり協会というか、その種目の専門性のあるところで、やってもらわないといけません。そういう話をし切れていないというのが現状のようです。

○大畑委員 私もオリンピックは契機に過ぎないというイメージで、1つのこういう大きなイベントがあった後に葛飾区に何が残るのかなと、そういう視点のまとめがいいのかなと思います。提言が、もしオリンピックがなかったら、ラグビーでも、そういう1つのスポーツが絡んだときに、葛飾区にどういう形のものを残していくかということで考えていく、そういうものかなと思っていました。

その考えでいくと、葛飾でオリンピックの会場となるものは何もないし、聖火が1回来て、地元体育館でパレードの練習をしても見ることはできない、そういう状況で開催される。葛飾区がオリンピックとどんなかかわりがあるのでしょうか。大会そのものは、ここで検討しても仕方ないのかなと。それよりも大会が近くにあつて、日本であつて、そういうものが波及されてくる。近い場所にいる葛飾がどう利用できるかという形の提言をしていきたいなと思っていました。普段運動をしていない人も始めるきっかけになるのか。パラリンピックが来ることによって、どういう会場で競技が催していけるのかとか、そういう視点に立った中で、葛飾がある資源をどうやって生かすかを検討できればいいのかなと思っていました。

○大島議長 前回の終わりのほうでも、葛飾が外国や地方から来る方にとってどう見えているのかということもたくさんお話が出ていたと思います。その辺にもかかわってくることでしょうか。

○大畑委員 そうですね。今までいなかった人たちが、葛飾を訪れたときにどんな対応ができるのか。またそれを続けることができるのか、続けることでどんなメリットが葛飾に得られるのかということもあるかもしれません。観光客がいきなり増えるということは、そんなにはないと思います。ただ、もしそれを契機にして、宿泊施設などの事業が始まれば、それも夢ではない部分にはなると思います。

○大島議長 民泊のお話も出ていましたね。

○竹高委員 近所の一戸建ての家で、スケジュールを決めて、かわるがわる泊める業者が入っている姿を見ました。もうそこは、はっきりと民泊と、この形で進みます、と周りに説明もなさる。ベッドなど新しく入れたのでしょうが、立ち入りしている姿などをみると、流れがまたちょっと変わるのかなという感じを受けます。

堀切菖蒲園の辺りで、中国の方だと思います。朝と夕方に何故多く見かけるのだろうかと思っていたら、銀行の跡地が語学の専門学校になったという話を聞きました。

海外から日本に来て日本語を全然喋れない、例えば日本で仕事をしたいと考えている人も必要になるのはまず言葉なので、そのところが大事でそういう形になっているみたいです。

10年ほど前、オリンピックが来るという話があった前あたりから、随分と葛飾区の中でも変わってきたなと思います。学校でも、以前は小学校でクラスに1人、2人だったのが、その比率が上がっています。他にもコンビニの店員さんも海外の方が増えるなど、随分葛飾区も変わってきたなと思います。

そうした流れの中、私たちはどのように受けとめて進んでいくべきなのかという方向をお話し合いできるといいなと考えていました。私はボランティアや教育の視点でしかふれていないので、スポーツの視点で協議できればと。

なかなかスポーツをする機会はありませんが、見ることは好きなので、マラソンが札幌に行っちゃって、東京オリンピックじゃないじゃないと思ってしまいました。

○大島議長 素朴な疑問なのですが、東京オリンピックの看板を札幌で掲げる？

○大畑委員 どういう看板なのでしょう。

○大島議長 でも、「東京オリンピック」という名称はどこにもないのですよね。

○竹高委員 だって、前回はばっちり「東京オリンピック」だったじゃないですか。

○事務局 「東京2020」ですね。

○竹高委員 「東京オリンピック」ではないですね。「東京2020」と絶対「2020」が入って。でも「東京オリンピック」じゃないの？2回目の、と私は思っていました。でもちょっとそれとは違って。そもそも日本の人は、この暑い時期になんで東京オリンピックをやるのだと、多

分皆さん思っていたと思うし、昔やったときには、ここまでの暑さではなかったと思います。今、物すごいですね。その時点でオリンピック委員会がおかしいと思う。しかも札幌に行ってしまうともっとおかしいと思ってしまいます。

○大島議長 「東京 2020」の名前を変えられなければ、札幌で「東京 2020」と掲げてやっていただくのが、せめてもの都民の矜持だと思います。

○大畑委員 これ、運営経費は東京が出すのですか。

○野川副議長 その辺はわかりませんね。

○竹高委員 多分札幌だけでもどうにもならないし、国でもどうにもならないから、そこを「東京 2020」と書くことで東京がお金を出すのではないのでしょうか。それは多分きっちりとはテレビニュースなどにも出てこないですね。

○野川副議長 出せないでしょう。

○長峰委員 確か、都知事は「出さない」とおっしゃっていましたよね。

○竹高委員 そうおっしゃっていても、どこかから捻出しなければ、日本として恥ずかしい話になるという。

○野川副議長 来年の7月が都議選になるでしょう。だからそれまでは小池都知事は言えないですよ。言うとしても、その後でしょう。なかなか難しいのは、森元首相が組織委員会のヘッドになっていて、それとは別に東京都の組織委員会があります。その上下関係は東京都の方がどちらかと言えば下ですよ。東京都の組織委員会が、JOCにくっついている組織委員会に何か言えればいいのですが、それが逆になっているので。だから、JOCを含めた組織委員会の4人の方々が程度コントロールしているのですよね。

あとは、先ほどの望ましい提言の時期ということで、竹高委員がおっしゃったように、本来だったら1期前の、去年の3月ぐらいに提言を出しておくインパクトがあったと思いますが、今からやってもなかなかつらいですよ。ですから、ポスト東京 2020 の文化の創造と継承というような言い方で持っていくというのも1つですね。そうすれば、より具体的なことが多分出せるだろうと思います。

もう1つは、キーワードをもう一回この会議で明確にしたほうがいいと思います。例えばスポーツの振興なのか、スポーツ実施率を上げたいのか、健康が絡むなど、その中で、葛飾区として優先順位の高いキーワードはどれかということで話をしていたほうが、進め方はやりやすいかもしれないですね。

今はみんな加熱している状況だから、葛飾区がこれをレガシーとして一緒にやりましょうと言っても、みんな聞いてくれない可能性があるので、ポストのほうがいいかもしれないですね。

それと、旅行者がオリンピック期間中に増えると言っていますが、過去の大会を見ていると実際はみんな減っています。ホテル代が高くなり過ぎて来なくなっているのですよね。では、民泊が

あるからといってその民泊も高くつきますから、案外避けるわけです。ということは、オリンピック期間中、葛飾はおとなしくしていようと。ポストになったときにどこそこを中心と観光スポットみたいな形にして、それで葛飾をこんなふうに生かすとアピールするしましょうぐらいの話かもしれないですね、観光ということだと。あとは、海外の人についても、長期滞在している人たちの話なのか、旅行者なのか、どちらを対象にするかで案はかなり違ってくるので、この辺のところは教育委員会も含めて聞いておかないといけないですよ。

○竹高委員 それがいいのかなと思います。ただ、やっぱりオリンピック期間中の、葛飾区であつたり東京都であつたり、区民や一般の都民、外国の方の流れであつたりとか、そういうところに視点を持って情報をもらったところで、その幾つかに分けていたもので集中してまとめていくというのがいいのでしょうか。例えばスポーツ、教育、観光など幾つかに視点を絞って、オリンピックを経た後にどういふ変化があつたか、葛飾区はどう進んでいくのが望ましいのかということ部門ごとでまとめていくような形はどうでしょうか。

○大島議長 いわゆるビッグデータというようなものは役所でも収集されているのではないのでしょうか。

○竹高委員 でも、役所ではなくてもインターネットでも、それが100%正しいかどうかは別として、ある程度、例えば海外から成田空港にどれくらい利用があつたのかというような情報は恐らくもらえるとします。それが葛飾区の中でどれくらいの動きがあるのかというのは、例えば役所や学校、教育でいえば子どもたちがオリンピックを見てどういふ接し方ができるようになつたのか。他にも葛飾区の年配の老後生活をなさっている方はオリンピックを経てどうだつたのかというのが、全部ではなくても幾つか吸い上げることはできると思います。この会議に参加している人が1人10人にアンケートをとってくるというだけでもそれはちょっと違う形で出てくると思いますし、全部が全部という形ではなくて、そういう流れがあつたということでの提言のまとめ方という意味でもいいのではないかと思います。

○大畑委員 オリンピック後も会議は続くので、オリンピックの結果も見られるし、オリンピックに向けてやっつこうとする姿を見てきたしという中では、オリンピックそのものに対して、ある程度皆さん共通の視点で見ているという状況になっていると思います。

この1期前の会議だと、こうしてほしい、こうなってほしいだけで現実的に考えにくいところがあつたかもしれません。今ここにいる委員はもう、東京オリンピックに向けて、東京都がかなり細かいところまでいろんな手を打っていることを知っていて、そこまでしないと大会はできない。それが区市町村にどう影響が出ているのか、現状で変わっているものが見えるはずだと思います。だから、そういうものを見た上で、いろいろいいものを葛飾には残していくということにおいては、結果が出て、先ほど竹高委員が言ったようにデータがとれれば一番いいのですが、データがなくてもその雰囲気とか感情、環境の違いというのは区内でも出てくると思います。そ

ういったものを素早く取り込みながら、提言のテーマを盛り込むと一番マッチしたものができるのではないかと思います。オリンピック後に何を残していけるかという。大会の真ただ中になると、盛り上げようよという視点に寄ってしまうのではないのでしょうか。

○竹高委員 葛飾区は新しく水元にスポーツ施設をつくったとしても来ないことになってしまっているじゃないですか。もし前期にやっていたら、多分何かやりたい、やりたいと思って盛り上がって、結局がっくり来ちゃっているかもしれないですね。

○大畑委員 がっかりしました。

○竹高委員 でも、葛飾区も小学校、中学校は、何校かは見にいけるという。全校がパラリンピックを見に行けるのでしたっけ。

○生涯学習課長 全校の生徒、児童が見に行けます。

○竹高委員 だとしたら、私もくっついていってもいいのかな。それで空気を感じてくることもできますし。

○大畑委員 それが一番の我々の強みではないのでしょうか。これからだという楽しさと、終わった後にみんなどう感じているのかを、時間は短いですけど、両方とも見られる。だから、体育館の使い方一つにしてもうまく使えないか、同じサークルでうまく使えないか、そういう提案もお互いにしやすくなってから、すき間なくうまく活用できるのだと思います。そういうパラリンピックで行われるスポーツも一般の人がやるとおもしろいゲームがあると思うので、年齢を問わず、時間を問わず、場所があればできるということを提案していけるとと思います。競技だけでなく、身体を動かすだけでもスポーツであるということを知って非常に気が楽になりました。毎日歩くのもスポーツ、毎日ダンスするのもスポーツ、深呼吸する、これもスポーツ、いろいろな意味のスポーツの捉え方があるのだということをもっと多くの人に知ってもらおうと敷居が下がるのかなと思います。競技性だけだと敷居が高いですが、スポーツってそうじゃないよ、もっともっと簡単にできるということを提案できるといいのかなという気がします。

○野川副議長 オリンピックもパラリンピックも競技大会なので、勝つ人は1人しかいません。あとはみんな敗者です。競技スポーツは勝ち負けがあり、肉体的、精神的なトレーニングをしないと出られません。それを見てみんな感激するのですが、一般の人はそこまでする必要はないのではないですか。確かに見るのはおもしろいけど、あそこまでやりたくないよねという人がほとんどなので、それをどう葛飾区の中で上手に広めていくかというようなことだと思います。

○大畑委員 その辺が一番大切な部分ではないのでしょうか、前期の高齢者という部分を含めて。子どもが少なくなってきて部活動が学校できなくなったときに、地域スポーツを考えてその中で、そういう気持ちのゆとりというのか、やる人たちのゆとりの中で何かできているのではないかと思います。今は学校が勝つことで学校の名前が売れるということは私立に限らず公立もありますから。違う形でやれるといいのかなと。長いスパンで見て。

○野川副議長 「オリンピック教育」という言葉を案外よく使いますが、クーベルタンが、加納治五郎さんがこう言っていたとフェアプレーが出てきて、それは子どもたちにぜひとも浸透させたいという思いがあるのですね。フェアと言い切れない社会だからせめてフェアプレーの精神だけは持とうと、スポーツのように衆人環視のところではずるはできないということがあるかもしれませんが、そのフェアプレーという精神、ジェントルマンシップなどを叩き込みたいので、「オリンピック教育」という言い方で、東京都含めいろいろとやっているわけです。ですから教育委員会もそれが押しつけにならない形で、オリンピックが終わっても持続するようにしていかないといけないと思います。僕は「オリンピック教育」という言葉は個人的には好きじゃない。半分、本当かよ、と思うところがあるので。

○竹高委員 「オリンピック教育」というと、スポーツをやっているそのルールを分かっている人だけがその精神を備えるように聞こえますが、スポーツをやっていないでもそういう精神は、それこそ歩くのもスポーツだという考えからすれば、全ての物事に関してフェアプレーをしていく、そういう教育は子どもが少ないだけに必要だと思います。自分さえよければいいという考え方が多いので。でも、そのフェアプレーの精神は自分ではなく相手のことを考えて初めてのことなので、そういう精神を、子どもたちが観戦して勉強してほしいなと思っています。

○野川副議長 道徳的な話になりますが、やはり宗教との関連が実は重要で、宗教がきちっとしていれば、フェアプレーを学ぶという意味でスポーツする必要はありません。ところが、日本のように盆、暮れ、正月、クリスマスと何でも反応しても、中身まで行っていない国民性になってしまうと、フェアプレーを学ぶ機会がないので始めたと考えたほうが良いと思います。それを「叩き込む」という言い方をしていたわけです。昔は「叩き込む」、今それはできないので、どうやって人類普遍の価値を継承していくか、そのツールとしてスポーツやオリンピックを上手に活用しようということだと思います。

そうすると、次はボランティアという話になりますが、たまたま今日は阪神淡路大震災の日ですよ。あのときにボランティアがいっぱい集まりました。しかし、それを組織化できなかったの、せっかく集まった人たちが、ボランティアが終わるとまたどこかに行ってしまった。今の社会はいろいろな意味でボランティアがいないと成り立たない社会ですよ。だから上手にボランティアマネジメントのような言い方でオリンピックやラグビーワールドカップなどの際に、組織化を上手にしながらスポーツ以外のところにも十分に活用できるような社会システムにしていくことがどうしても必要で、そのきっかけとして、オリンピックはとても重要だと思います。

○大畑委員 ボランティアの希望者は、結構長時間拘束されるということを聞きました。そうすると、例えば、会社に勤めていたらそんなに休みとれないよ、そんなに時間をあげられないよとなると、そういう社会情勢の中で、企業がどの程度受け入れていけるものなのか、その辺りは厳しいと思います。例えば1週間、福島にボランティアに行きますと、じゃあいいよ、行ってこい

と会社が送り出せるものなのか。では何日休みね、でも有給はもうあなたは1日しかないよとなってしまうのか、そういう社会環境がこのオリンピックを契機に変わっていくのであればよいと思います。日本の企業は、比較的スポンサーになりにくい、スポンサーになるのが非常に下手というか。もっともっとそういう部分で資金投下してもらえると、手伝いにいける人も動けるだろうしということがあると思います。

○野川副議長 1つは税制の問題があると思います。寄付のお返しに節税ができるということがよくわかっているアメリカのスポーツ選手や企業は気前よくお金を出すわけです。その理由は税金として出す必要がなく、売名行為もできる。売名行為と言っははいけません、そういう環境にしたくてもなかなかそれが通らないのですね、日本の場合には。

例えばの話ですが、葛飾区は法人税の0.2%はこれから5年間こういう目的で使いましょうというように、法人税の中の、極一部かもしれませんが年数限定で目的税をやりませんかと言ってみてもいいかもしれません。できるかできないかは別です。社会教育という大きな枠組みの中でこれとこれを例えば5年間のうちにこう使えないかとか、そのためには皆さん方の資金が必要だということ。これはアメリカの場合ですが、プロバスケットボールチームを誘致したい、フットボールチームを誘致したいので新しく体育館のアリーナをつくりたい場合、大体25年間税金を投入し続ける必要があるので最初の10年間だけ市の観光税の2%をこちらに回してくれませんかと県民投票をやるのですよね。確か11月の第1週の火曜日にやるのですが、そこでイエスが多ければやってしまいます。そのようなシステムがあるので、葛飾区もおもしろいやり方でやろうよという一番いいのは法人税の何%かを上手に使うやり方です。固定資産税云々という大変だから。やはりお金を勘案しないと全部絵に描いた餅になってしまうと思います。

○大畑委員 そう思います。どこかにその覚悟がないと具体的に動けないですから。

○野川副議長 ボランティアが増えて、介護や子ども、外国人の定住の人たちの教育のお手伝いをするとかという形で、そうすると、ただでないボランティアですよ。

○竹高委員 有償ボランティア。

○野川副議長 有償ボランティアを上手に組み立てるというシステムもやっていかないと、つらいですよ。

○竹高委員 確かに有償ボランティアというのは、私も無償でやっている部分と有償でやっている部分があるのですが、無償でやっているのは本当に自分が好きだから、必要とされているからやるのですが、あと一歩というところで出られない人は、有償であることで若干でもお金が発生しているからきちんとしなければいけないという責任もそこに入ってくるのですよね。そうするときちゃんと続けて継続してやることができるという、お金のためにやるというわけではないですが、それこそ本当に有償ボランティアの報酬は少ないものなので。でも、それが発生するか発生していないかで責任の度合いが変わってくるのは事実だなというのは本当に思いますね。

○大畑委員 張替さん、スポーツクラブの運営はみんなそうでしょう、水元にしても小谷野も、運営委員の皆さんとか自前でやっている。多少は貰うけど、賃金として計算したら東京都だとすぐにひっかかってしまいますよね。

○生涯スポーツ課事業係長 そうですね。

○竹高委員 だから、有償ボランティアを仕事としては認めない、認められない形でないと報酬を発生させられないと、そういう仕組みにもなっている。

○大畑委員 だから、葛飾区がもしそういう人を使っていたら最低賃金の問題も出てきちゃうからできないですけどね。

○竹高委員 だから、そこが「有償ボランティア」であって、賃金ではないので最低賃金の問題は大丈夫です。有償ボランティアというのはそういう枠組みで、こういうシステムですと確立させれば最低賃金とかは関係ないですよ。お仕事をした分でもらうものではないので。

○大畑委員 報償費みたいな形で。だからその方をどうするかも問題だけど、やるからにはそういうものを組織的につくっていかないと継続性が大変かもしれないですよ。

○事務局 かつしかふれあいRUNフェスタは6回目ですよ。ボランティアもいっぱい募集して活用しているし、企業からの協賛もあります。今のお話に関連するところで紹介していただければと思います。

○生涯スポーツ課事業係長 ボランティアについては、1回目から区内の学校、高校、大学、体育協会、スポーツ推進委員、青少年育成地区委員会、関連があるところにまずは声かけをさせていただきました。実績を重ねていくことで我々も手伝いたいよという声がどんどん上がってきて、例えば郵政の組合の方が手伝わせてくれと、他にも、柔道整復師会の方がコース上で足が痛い人のケアできるようにやらせてくれと、自発的に手を挙げていただいて、できるところを、専門的なところをなるべくやってもらうというような、最初はどうやってボランティアを集めようかというところで悩んでいたのですが、意外とやりたいと手を挙げてくれる方が多くて助かっていて、今後もどんどん広げていければなというふうに考えております。

それはと別で、区でもスポーツボランティアという、講習会を一度受けてもらって後に登録してもらっています。区のイベント、RUNフェスタでも、この間のキャプテン翼CUPでも声かけをさせていただいて20人ぐらいのボランティアさんがもうほぼ無償でお手伝いに来ていただきました。皆さん積極的に協力いただいている、昔は体育協会の人に、どこどこ協会、何名出してくれというようなやり方をしていました。それがオリパラを東京でやることになり、ボランティアの育成・登録制度というものをつくりました。そうしたら手伝ってくださる人が増えてきて、今はもう250人の方に登録してもらっていますので、財産になったのかと感じております。

○事務局 企業には回って協賛を受けているのですか。

○生涯スポーツ課事業係長 企業も、最初は協賛を集めるのにテクノプラザかつしかにある商工

会議所に相談して紹介してもらって説明に行っていました。これも実績を重ねることによってうちも協賛したいという声が年々増えてきている状況です。特別協賛、ミヨシ油脂株式会社、堀切の会社ですがそこから大口の協賛をいただき、株式会社ダイオーズジャパン、清掃サービスや、コーヒーサーバー等を取り扱う会社ですが、給水の水を探していたところ、ぜひ提供してくれるということでコース上の水を全て用意してくれています。そうした協賛も年々増えて、特にうちから行くというより年々問い合わせが来ている状況です。

○大島議長 聞いていておもしろい対応だなと感じたのは、スポーツのイベントは、実際それに携わっていない人には、時間の頭とおしりがはっきりしていて、終わったら一回責任を離れられるということがかなり明確だなとインドア派からすると感じました。というのは、例えば文化祭ということをやろうとしても、関係者以外の目に触れにくいので、そもそも人をつかまえにくいなということを感じました。また、社会教育の領域に属する活動にも、何か参考になるようなこと、導入できることがあればいいなと思って今伺っています。だから、文化的な活動にももちろん協賛はありますが、比較すると得にくいのかなとか、いや、そんなことないよという声もあるとまたさらに楽しみです。

○生涯スポーツ課事業係長 協賛以外にも応援団体という形で公募をしています。そうすると、私たちは走れない、でもランナーを応援したいということで太鼓の団体や、コース上でバンドが歌うと、それを聞きながら走ってランナーも力をもらえるということで好評です。スポーツ以外のところでもこのイベントで活躍いただける場になっているのかなと考えています。

○大島議長 それはどういう場所に応援しているのですか。

○生涯スポーツ課事業係長 始めたのは河川敷のコースです。景色が変わらなくてランナーとしては単調でつらいという声を聞いて、コース上で2キロごとに応援を置くかと募集しました。そうすると走っているところでだんだん音が聞こえてきて太鼓の人が応援してくれている。公募で12団体だったと思います、今度ご協力いただけることになりました。これも年々増えています。

○大島議長 活躍の機会づくりにもなっていると。

○野川副議長 東京マラソンも同じようなことをやっていますね。東京マラソンの場合は大体2億円かかるそうです。

○大畑委員 警備だけでも半端ないですよ。

○野川副議長 警備は大変だと思います。

○大畑委員 道路を全部封鎖して。

○竹高委員 警備だけでお金がかかりますものね。

○大畑委員 河川敷のいいところと悪いところだと思います。河川敷だから土手の外が見えないのです。アドバルーンを上げてここが会場ですとやっていたら見に来る人もいるかもしれませんが、そういう中でこういう応援団体が出てくれるというのはやっぱりいいですよ。

○竹高委員 今、随分知名度が上がってきたので、堀切菖蒲園の駅から歩く人が朝すごいです。土手の上で応援している方が、散歩しながら見に行くような方が物すごい数です。そういうのと観光をマッチさせてお金を落としていってもらえるような仕組みを商店街の方と考えたらいいのと思います。土手から離れるとランナーも応援の方も散らばってしまうので、やっぱり土手で何かという形のほうがいいのかなと思います。寒い時期なので温かいものが安く飲めたりするのが、応援の方にとってもランナーにとっても嬉しいだろうなと思います。

○大畑委員 商店街の協賛ありますよね。反応はいかがでしょうか、実際には。いろいろ載っていて、サービスを受けられますというのがいっぱい出ていますが。

○生涯スポーツ課事業係長 堀切の商店街の方に企画していただいて、50 店舗ぐらいでしょうか、我々がちょっと旗を準備させてもらうのですが、そのお店ではランナーが行ってナンバーカードを見せるとビール1杯サービスするよとか10%引きにするよとか。

○大島議長 走りながらではないですよ。

○生涯スポーツ課事業係長 私も気になっていてのぞきに行きました。各お店ともランナーたちで盛り上がっていました。

○竹高委員 順次終わった人が来るので早めに開けている感じで。銭湯も早目に開けていますね。

○生涯スポーツ課事業係長 普段は夕方から開けるところをこの日は 11 時から開けてくださいとお願いしています。

○竹高委員 雪や雨が降ったときは特にありがたかったみたいですね。ランナーには雪でも雨でも走るの、その帰りに入れたのはよかったというお話を聞いたことがあります。

○生涯スポーツ課事業係長 ただ、大勢の人が行くのでお湯が汚れてしまったり、常連の方にちょっと申しわけなかったりとか。

○竹高委員 普段行かれる方が少ないので、そうすると人数がそれだけ普通に入っても大変なことじゃないですか。

○生涯スポーツ課事業係長 この日だけはお願いしますと。

○大畑委員 1日だけですものね。そういう意味では堀切は恵まれていますね。菖蒲園があって、なおかつ大きなイベントがあって。堀切菖蒲園はそんなに大きい駅でもないし目立つ駅でもないですが、このイベントで葛飾を代表する場所に徐々にはなっていますよね。

○野川副議長 やっぱり教育委員会だけでやろうとすると限度がありますよね。観光協会が一緒に入ってくると、彼らはいろいろな仕掛けができますから。

鹿兒島の指宿市というところがあります。先週終わりましたが、1年の内で日本で最初にやるフルマラソンで、いぶすき菜の花マラソンがあります。そちらの調査を 30 年ぐらい前からずっとやっています。それで、よその都市だと、教育委員会がやって四角四面のやり方しかやらないのでやっぱりスポンサーもつかないし、いろいろ難しかったのですが、観光協会が入った瞬間に、

彼らは参加者にいかに来てもらうか、そして泊まってもらうか、泊まらせるために何人走らせるかということを計画します。朝早くスタートすると前泊しないといけないじゃないですか。ホノルルマラソンもですが、必ず1泊するようにするとか、走り終わった後に温泉に入ってもらい、走り終わった後に芋汁か何かを食べられるとか、そういうパッケージにしまって、あと、道ではいろいろなお店がクーポンを渡すわけです。10人に1人しか使わないから損はしない。そういうやり方で、キャパ何万人ぐらいはいけそうなのかというと、1万2,000人ぐらいまでオーケーだということです。なぜやったかということ、お正月の第2週、第3週は宿泊客がほとんど来ないということです。だから、どうしてもそこで泊まってもらうために菜の花マラソンを始めそうです。それと同じように、ホノルルマラソンも12月の第1週か第2週にやるのですが、クリスマス前で1番観光が落ち込むときです。そうすると、日本からわーっと行くわけです。それで、3泊4日で大体100億円ぐらい落としていく。やはり観光協会などが入ってきていろいろアイデアを出すとおもしろくて、そういうのが成功するいい例ですよ。

それで、ホノルルマラソンでも、水を渡すボランティアはもう6時間ぐらい叫びっ放しで声が出なくなってしまうんですが、それでもやりたい人たちが、お金は払わなくても列をなしています。2キロぐらいの間隔で全部で16の団体が、ホノルルマラソン協会だったかに寄付をするとブースがもらえます。そうすると、飲み物とかいろいろなものを全部自分たちで用意して、それで後片づけして帰るといった仕組みです。

○竹高委員 宣伝の一環ですね。

○野川副議長 そうですね。だから、価値を持たせると、全部持ってきてね、掃除もして帰ってよというやり方が多分できるだろうと思います。

○竹高委員 日本はそういう考え方が遅れているのですね。

○野川副議長 教育委員会でやろうとするとお金のことは言い難いでしょう。

○竹高委員 そうですね。主催が教育委員会だとそこが難しい。そこを切り分けて、そこはもう丸投げという形でやるというのは。

○野川副議長 うるさい人がいっぱいいるのですよ。ごめんなさい。

○大島議長 いえいえ。それ、だからあれですよ。国際会議とかでもある、国際会議本丸と、NPOがすぐ隣で好き勝手お祭りをやるというのと一緒に、教育委員会はここまで線を引いて、線の向こうで関連のイベントをやるという、区内で具体的な例はないでしょうか。

○野川副議長 葛飾すれすれイベントとか。

○大島議長 今までのルールは越境しないけど、そこまで来たら一緒にやっちゃえよというぎりぎりのところまではもっともっとすべきですよ。

○竹高委員 スポーツフェスティバルなどでは、スポーツセンターの手前で葛飾バーガーを始めとして販売しています。そういうのはもう自分たちで行って準備して、そんなに高い金額ではな

いですけど売っていたりヤクルトさんも宣伝したりしていました。他にも障害を持っている方たちがつくったアクセサリを売っているというのは、フェスティバルに行ったことがある人は必ず見ていてわかっているので、またそこに行ったら買えます。ただ、それがもっと例えばどこかの、先ほどの例で言ったらミヨシ油脂さんが商売っ気を出して石けんや油を売るところまでは行ってないということですね。ミヨシ油脂さんもブースは一応持っていてやっていらっしやいますし、お店も増えています、でももっと置かないと多分厳しいのだと思います。

○野川副議長 あんまりお金を使わないでしょう、走る人は。

○竹高委員 ところが、寒いので。

○野川副議長 ジャージで来てジャージで帰っちゃう。

○竹高委員 そうですね。でも、温かい飲み物、食べ物が欲しいですね、終わった後には。

○野川副議長 ホノルルマラソンでもそうですが、本当に日本からジャージで行ってそのままジャージで帰ってくる人が意外と多くて、ちょっとびっくりしました。

○竹高委員 本当に走りに行くのですね。

○野川副議長 そう。ただ単に走りに行くだけで、市内観光なんかほとんどしないです。

○竹高委員 行く人はもう毎年のように、観光ではなくて走りに行くので。

○野川副議長 そりゃ、前の日にカラオケなんか行かないですよ。

○事務局 もう 10 年以上経っているイベントで、堀切大凧揚げ大会がこの間ありまして、堀切の同じ河川敷ですが、PTAのOB会が温かいそばを、地元の商店街さん、パン屋さん、葛飾元気野菜とか、協力いただいている新潟からの物産だとかいろいろ出店しています。温かいのが好評のようです。

○野川副議長 こういうときに、チャリティファンドみたいなもので 500 円でも 1,000 円でも募金していただいて、例えばこの間の水害に使いたいとか、ボランティアをするとか、普通にできるようになるといいですよ。

○竹高委員 役所で寄付はないですよ。

○生涯学習課長 例えば東日本の大震災の募金をまだ受け付けていますし、台風 19 号のものとか、そういったものについてはやります。ただ、一般的な、野川副議長、竹高委員の意味するところはないです。そういうのだと、社会福祉協議会などが受け皿になります。

○野川副議長 だから、なかなか難しいのですよね。

○竹高委員 何かイベントで入り口と出口にその箱を設置しておくだけで、その運用はどこかの部署がやってくださるのかという形であるとそれもまた違うのかなというお話ですよ。

○生涯学習課長 30 年ぐらい前は協賛なんてまず考えられませんでした。私も 30 年ぐらい前にスポーツセンターにいましたが、そのときにはどうやって受けたらいいのだと頭をひねるぐらいの時代でした。今はその点、普通になっています。

○野川副議長 いや、菜の花マラソンをやっていたときに、全日空、日本エアシステム、日本航空が3枚ずつ海外の切符をくれるなどの協賛をしてくれました。やっぱり鹿児島に、飛行機に乗ってほしいから。JRはなかなかやってくれませんでした。葛飾の場合だったら交通機関とかいろんなことでできると思います。

話は少し変わりますが、人を集める上でやっぱり一番大変なのはトイレですよ。

○竹高委員 私もそう思いますね。

○野川副議長 ウォーキングのイベントでもそうですが、やっぱりトイレが大変なのと、道路を塞いでしまうので、警察への届け出も大変ですね。

○大島議長 外側から見えないという意味では残念ですが、河川敷や水元というのは使いやすいところではあるのでしょうか。

○竹高委員 水元は交通の便が悪いです。バスの本数が増えましたが、水元に行くのに堀切から考えても、バスを乗り継いで行くなら自転車で行ってしまおうかと思います。駅を出て5分、10分以内という立地条件だととても行きやすいですね、いろんなイベントも。

○大畑委員 スポーツ推進で柴又から水元へのウォーキングをやっていますよね。8キロ、10キロと、結構あるのですよね。

○長峰委員 はい。4キロが水元まで、往復で8キロ、10キロに。

○生涯スポーツ課事業係長 一番長いのだと14キロあったと思います。

○大畑委員 かわせみの里まで行くやつですよ。

○長峰委員 あと、ストックを持って。

○生涯スポーツ課事業係長 ノルディックウォークですね。

○事務局 それはもう今年は終わったのですか。

○長峰委員 前回まではお花見だったのですが、イベントがあるので変えてほしいということがあって、秋、11月の紅葉をというように変わりました。

○竹高委員 3月の、学校なども終わった週末あたりですよ。

○大畑委員 ネーミングがいいのでしょうか。お花見ウォーキングというのが、すごくね。

○竹高委員 陽気も歩きたくなるような陽気です。

○大畑委員 そうそう。

○長峰委員 お花見の方が人気があったのかなと思います。

○竹高委員 どちらかというと、この紅葉は寂しくなる感じだから。お花見はちょっと明るくなるイメージですよ。

○大畑委員 水元公園に梅があれば梅の時期というのもいいのでしょうか。

○生涯学習課長 梅はないですね。

○大島議長 今伺っていて、知らないこともいっぱいあって、どんなことが起こっているのかと

いう周知がシンプルに必要ですよ。

○竹高委員 ただ、こういうイベントも、広報や担当の方はアピールして、こういうパンフレットも目にするので一生懸命やられているなと思いますが、昔のものは地味ですよ。今はインパクトがあるので何だろうと思って見ます。インパクトはもちろん必要ですが、広報的にはもう一生懸命やられているのでこれ以上の宣伝はきっと厳しいのかなと思います。ホームページ、ツイッターなど全部出されていますよね。

○大畑委員 ランナーに対する呼びかけが中心だと思いますが、見物する人たちの誘い込みも少しこの中にあると。

○竹高委員 そうです。その楽しみ方もそうですね。

○生涯スポーツ課事業係長 これはランナー向けのパンフレットで、こんなイベントをやるよというパンフレットをこれからつくってまた地域にお配りします。

○竹高委員 いろんな方がいらっしゃいますよね。内藤さんもいらっしゃるでしょう。

○生涯スポーツ課事業係長 そうですね。ここに載っていませんが、神野大地選手も来ます。ハーフマラソンを走ってもらうことに。

○竹高委員 内藤さんは葛飾区のPTAをやっていて、そこら辺をうろろしていますよね。

○生涯スポーツ課事業係長 内藤さんは私の知り合いからゲストで出たいと、逆に。

○竹高委員 すごく温かくて一生懸命やってくださっているみたいで、おもしろいですね。

○大畑委員 全体的にスポーツを取っ掛かりにして、何かいろいろなことができるような感じがしてきますね。今やっているスポーツを含め、その事業を盛り込んでやっている行事、そういったものを網羅してみて、こういう機会の中でどういうことが皆さんに目を引いてもらえるか、何か提案できそうなものがありそうな気がしますよね。

○大島議長 今お話を伺っていたら大分明るい目標が見えてきたような気がします。

あつという間に時間が近づいてきてしまったので、今後の進行についてというところに入りつつ、この先の話をしてよろしいでしょうか。

(2) 今後の会議の進行について

○大島議長 では、今後の進行についてから、次回は、2月14日です。

○事務局 会場はこちらです。前回、野川副議長からお話がありました障害者スポーツに明るい方ということで、具体的に水原さんにおいでいただけるということになりまして、元パラリンピック委員会参事の方をお願いしています。

○野川副議長 障害者スポーツに長くかかわってこられている方なので、いろいろなことが分かります。障害者スポーツというとボッチャだけをイメージされると思いますが、そういう

単種目ではなくて広く。それと「障害者スポーツ」というものは実はないのですよね、だから、健常者も障害者と一緒にできるように、恐らくルールを少し変えていくとか柔軟性を持たせるという、そういうことも含めて水原さんからいろいろなお話があると思いますので、よろしくお願ひいたします。

○大島議長 ありがとうございます。これまでに加えた新たな視点ということにもなろうと思ひますので、それを受けて3月にもう一度柱についてお話ししていきたいと思ひます。今日いただいたご意見を、まずこんなふう聞き取れたよということを皆様にお渡しするだけで見ていただいて、またたくさんおいでいただけるような工夫をしたいと思ひます。

それでは、その他ということでお願ひします。

○生涯学習課長 スケジュールをお示しさせていただいたところですが、先ほどの議題の中で提言を出す時期はいつだろうということのお話がまとまってなかったと記憶しています。予定としては、来年の今ごろ提言するというようにスケジュールを考えていますが、これで問題ないという理解をしてよろしいですか。

○大島議長 そうですね。

○竹高委員 今日いらっしゃっている方の中ではその予定で進むのがいいと思ひます。

○生涯学習課長 私どもが今回のテーマを示させていただいた想定としましては、この時期に提言いただいて、オリンピックの前に提言すると、受け手はオリンピックが終わってしまうと話も終わってしまう可能性があつて、終わった後に何が残せるのか、継続していけるのか、というご意見をいただいて、それでそれを教育行政とかいろいろな施策に生かしていきたいと思ひますので、このスケジュールが私どもの思ひです。

○大島議長 ありがとうございます。特に校長先生方にも十分情報共有いただくというためにも時間も必要かと思ひますので、改めてこのスケジュールでということを確認できたということによろしいでしょうかね。

ありがとうございました。

それでは、議事は以上となりますので、事務局のほうにお返しいたします。

○事務局 一つお願ひがあります。大畑委員が出ていらっしゃる葛飾区基本構想・基本計画の策定委員会の団体としてアンケート調査をしたいということです。都市整備部街づくり推進課から京成押上線四つ木・青砥間の連続立体交差事業について、その下の用地の活用に関するアンケートを皆さんにしたいということで依頼されました。近いうちに皆さんのご自宅にアンケート用紙が郵送されるということです。どうぞよろしくお願ひします。

○大島議長 以上でよろしいですね。本日はお疲れ様でした。

— 閉会 —